

委員から出された意見

P I 外環沿線会議 委員への「考え方」についての報告会

外環の「考え方」について

- ・外環本線は、現在の都市計画の位置を基本として、極力、大深度地下を活用し、3つの高速道路とはジャンクションで接続し、インターチェンジを3カ所に設置する案とする。この案をもとに、地元のみなさんの意見を聴きながら、計画を具体化し、環境問題を検討していきたい。【提示資料補足説明】
- ・沿線のまちづくりや周辺道路の整備等も沿線自治体とともに検討を進めていく。【提示資料補足説明】
- ・沿線地域の環境への影響が大きいと判断された場合には計画をやめることもあるという認識を進めていく。【提示資料補足説明】
- ・東名以南についても、検討のスピードを早めて取り組んでいきたい。【提示資料補足説明】
- ・今後の検討の各段階においても広く住民の意見を聞きながら検討を進めていきたい。【提示資料補足説明】
- ・計画概念図を近々発表し、意見を聞きながら計画の具体化を進めていきたい。【提示資料補足説明】
(山本委員)
- ・今までの議論になかったーフインターが、構想段階の区切りから9月16日の新聞発表までの短い間で活字になったのは、杉並、練馬両区長と国土交通大臣の話し合いで政治決着したからではないか。(岩崎委員)
- ・インターチェンジについて様々な場で意見を聴き、あわせて、両区長からも見解を聞いており、それらを勘案し、国と都でーフを示した。これをもとに、意見を聴きながら検討を進めたい。(山本委員)
- ・「考え方」は案であるというが、正式表明と書いてある新聞もある。なぜP Iで決めないのに正式発表されたのかと住民から言われ困った。
- ・練馬区長もーフでは機能を発揮しないと認めるようなコメントをしているが、都と国はなぜ認めるのか。
(岩崎委員)
- ・新聞の内容でもし住民の方が誤解をしていたのであれば、しっかり説明していかないといけない。
- ・利便性や機能だけでなく、環境や地域への影響を総合的に勘案してーフを提案した。(山本委員)
- ・構想段階のとりまとめから「考え方」の発表までの短い期間で、構想段階が終わったことについての意見を各7区市の区長、あるいは区、市議会に聞いたのか。
- ・構想段階で十分議論されていないルートの位置を「考え方」で明確にしたことで、何のためにP I協議会をやってきたのか疑問が生じ、残念である。
- 意見
・「P Iについての総括」の中に、住民の意見や委員が指摘した疑問点も入れるべき。
- ・構想段階の結論を決定するとき、どういう方法で書いたのかを聞きたい。(濱本委員)
- ・結論を出すに当たって、P I会議でのみなさんの意見、各区市の意見など今までの意見を国と都で改めて議論し、それをもって9月16日の発表に至ったと理解している。
- ・ルートについて意見も伺い、現在のルートが最も適切ではないかと表明してきた。改めて「考え方」をまとめるに当たって、現在の位置を基本という形で案を示した。
- ・みなさんの意見は「みなさんの声」、P I会議の意見表明の冊子などに載せている。「これまでの検討の総括」は国と都の考えを整理したものである。(山本委員)
- ・なぜ青梅街道のーフインターという話がこの段階で出てくるのか。(新委員)
- ・これから意見を聞くための1つのたたき台として「考え方」を提案した。(山本委員)
- ・P Iをやっているのだから、本気になって住民と相談してほしい。(新委員)
- ・東八道路にインターチェンジをつくる案を出したのに、練馬問題を三鷹で起こさないという決意表明がない。
- ・市民の疑問に対する回答が明確でないうちは、「考え方」を前提とした議論に入れたい。(藤川委員)
- ・「考え方」をもとに具体的なものを提示し相談したい。その中で、練馬問題を引き起こさないことを具体的に実行していきたい。(山内委員)
- ・今まで外環の整備で心配、問題だといわれていることに答え、それを踏まえた道路づくりを行うということ、なぜ「考え方」の中に書けないのかが大変疑問である。(藤川委員)
- ・地元の自治体とともに意見交換をして、様々な課題について検討していくことが必要である。(山口委員)
- ・青梅街道がーフインターになった場合、谷原の交差点は今よりもっとひどい渋滞になる。お互いに痛みを分け合う元の形が正しいと思う。
- ・「考え方」のインターチェンジはもう固定したものなのか。
- ・世田谷通りにインターチェンジを設置しなければ東名は大変なことになるが、どういう対応策をとろうとしているか。(武田委員)
- ・外環の本線が仮に南の方につながり、環八の周辺が整備されると、谷原の交差点はかなり楽になるとの予測を出している。仮に青梅街道がーフインターでも、今よりひどくはならないと予測している。
- ・東名、環八の瀬田交差点付近も非常に厳しい状況であり、東名以南をしっかりとっていくのが大きな課題だ

	<p>と思っており、ぜひ進めていきたい。(山本委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青梅街道インターから入った車が練馬へ流れていくことになるので、地元は大きなロスを抱えることになり、地元が納得する何らかの方策を考えてもらわなければならない。(武田委員) ・意見はどう反映されたのか、必要だと判断できるだけの材料がそろっていたのか大変疑問である。 ・過去の実績や他の研究の成果をみても、渋滞緩和効果は疑わしい。【提示資料補足説明】 ・国土交通政策研究所が道路整備は温暖化を進めるのではないかと報告している一方で、外環担当はCO2削減効果があると言い、矛盾を感じている。【提示資料補足説明】 ・経済効果の計算は、余りにも過大評価になっているのではないか。【提示資料補足説明】 ・道路整備が温暖化を最も進めて、鉄道運賃を半額にしたケースが最もCO2が削減されるという研究がある一方で、三環状に効果があるからと熱心に進めていることが理解できない。【提示資料補足説明】 ・何らかの形で引き続き構想段階での検討をする場を設けて話し合いを続けていくべき。(江崎委員) ・青梅街道のハーフインターという半端なものをつくらないでやれないのか。(宿澤委員) ・「考え方」のような提案を出される場合は、1つの案でなく、2つか3つ考えてほしい。(濱本委員)
--	--

今後のPIについて	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・PI協議会が一番前提になると思うが、今後、PI協議会はどうなるのか。(濱本委員) ・構想段階と同じように、沿線自治体だけでなく、住民の意見を聞いていきたい。全体の会議は、具体的に今後どうしたらいいか意見をいただきたい。 ・今後のPIは、地域に行って地域の課題について話をすることが主体になってくると理解をしているが、やはり全体の場にフィードバックするなどあっていいのではないかと思う。(山本委員) ・地域の方々に環境への影響等の情報をどういう形で出していくかが大事と考えており、地域の方々へのPI活動に軸足を移していく。 ・大きな場でのPIは、皆様方の意見を伺いながら、今後検討していく。(臼田委員) ・環境に対する問題等の検証していくためにも、この会を継続してほしい。(渡辺委員) ・環境への影響などもPIで議論していくべきであり、PI会議はこれからもやっていくべき。(栗林委員) ・地域でのPIを徹底的にやり、それを全体の中にフィードバックする形でしてほしい。(藤川委員) ・区、市レベルでそれぞれ検討してみて、もう一度集まって議論してみる必要がある。事務局はそれに向けた手順、あるいはチャートをはっきりさせて、改めて諮ってもらいたい。(武田委員) ・全体のPIはやるべき。また、計画の案がまだ決定していないことをしっかり頭に入れてみなさん方に説明して議論し、地域のPIをやらなければならない。(濱本委員) ・地域PIをやる一方で、全体のPIを今までと同様に並行してやるのはかなり厳しいと思うので、全体のPIを節目節目でやっていくようなことが一番いい。(板垣委員) ・全体PIのどのような形にするのかを大体決めて、行程表を決めた上で今後行うべき。この場で案を出して、みんなで納得した上でしてほしい。(新委員) ・地域PIは必要であり、全体PIの場を継続的にすることも必要である。節目節目でフィードバックをするような場を設けることでどうかということを検討させてほしい。(山内委員)

東京都知事の発言について	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・都知事の記者会見で、都計変更してつくるというニュアンスの記事が流れた。環境への影響が重大と判明した場合に計画をやめることがあるとの感覚が知事にはないように思う。 ・都は知事の意に対して、知事のいう考えどおりに邁進したい、進めたいという話になるのではないか。 ・クレジットに名前を出している以上は、事務方として責任ある考え方をしていただきたい。(渡辺委員) ・都知事は、東京の都市再生、東京のダイナミズムの向上などの観点から外環の必要性をこれまでも訴えてきている。私どももその考えを受けて、構想段階のとりまとめで、外環は改めて必要だと意見を述べた。 ・都市計画を担当する立場から、みなさんや自治体の意見を聞きながら、今後も検討を進めていきたい。 ・都市計画は、最終的には環境審議会や都市計画審議会などみなさんの代表者が入っている場で判断される。(臼田委員) ・我々は知事の部下という形の中で、知事の考え方を実現していくためにやっている。基本的に外環は必要であると考えており、次の段階として、より具体的な計画を示していく必要がある。(山口委員) ・知事の発言内容は誤解されやすい。このPIは一切今後要らないということが。(武田委員) ・PIは要らないなどと言っているのではなく、次のステップに移っていく中で、具体的な計画を早く出すべきだと言っている。各段階で意見をいただく機会を設けていく必要があることは、これまでと変わらない。(山口委員)